



第四号
平成23年3月7日
発行
熊本市高平2-20-35
曹洞宗 浄国寺
編集者
中山 義昭

春季彼岸会法要

(兼 先代住職三回忌)

三月になり、気温が一定せず、体調を崩されている方もおおいのではないかと心配しております。今年も、下記の日程で恒例の春のお彼岸の先祖供養の法要を営みます。早いもので、先代住職が遷化して丸二年、今年が三回忌となりました。中興の称号を戴きましたが、その名の通り檀家の数も少なく寺院運営もままならなかった浄国寺に派遣され着任し、教員職や幼稚園の経営をしながら現在の浄国寺を再興し、私の代に受け渡してくれました。

今は今なりに皆家族が居て、家庭生活を営んでいるのも事実です。貨幣経済中心の生活になる一方、日本の経済発展は停滞し、我々の生活は少しづつ苦しくなり、心はずさみ、毎日不安な生活を送っています。「今、心の時代」と叫ばれて長い時間が経過しましたが、こんな日々の中、宗教の果たすべき役割は大きくなっているのではないのでしょうか？

せつかく、先代がここまで再建した寺院です。檀家の皆様、そして多くの方が心の安らぎを得ることが出来る場所として充実したいと思っております。檀信徒の方々も、法事や墓参だけでなく、お寺に寄って戴きますようお願い申し上げます。



お彼岸の由来

今年も、例年通りお彼岸の法要を行います。お彼岸とは何でしょうか？あの世？三途の川の間？あそこ？そして、その向こう岸に渡った方の供養すること？これらが、一般のイメージでしょう。お彼岸という仏教行事は日本独特のもので、日本は昔は農耕社会でした。そして春分の日や秋分の日の季節は、農作物の収穫を祝い、それに感謝し大自然の象徴である神々

に御供えをするという習慣がうまれました。更に中国から二十四節気の思想が入ってきたこと、先祖は家の守り神であるという伝統的思想が混じり合い、春分秋分の日とその前後に先祖供養を行うという習慣が根付いたようです。それでは、彼岸という言葉の仏教的な意味は何でしょうか？

浄国寺春季彼岸会

日時 平成二十三年三月二十四日(木)

午前十一時より

当山七世中興無間道全大和尚 大祥忌

導師 本寺 大慈寺 住職

佐藤泰道 大宗師

彼岸会檀信徒総供養

法話 宇土市 法泉寺住職

藤井慶峰 老師

簡単な弁当を用意しております。出欠及び人数を同封の葉書で返信下さい

土と訳されてきました。これは苦しみを耐え忍ぶ世界という意味です。そして、その苦しみから解放された世界が涅槃です。涅槃はニルヴァーナという古代インド語の音訳で、「煩惱の火が消えた、苦しみから解放された世界」という意味です。これを「悟り」と言い「解脱」と言います。そして、悟りに到った人が「仏陀」と呼ばれます。つまり仏様です。つまり、我々の生きている世界というのは本人の意思に関係なく老いて、病気になる、死にたくなくても最後に命は尽きます。それだけでなく、お金が欲しいのに儲からない、仕事は上手くないかない、成績は上がらないと色んな執着(「煩惱」)が次々と生まれ、苦しんで一杯の世界です。これが、こちら側の世界(「此岸」)です。これに對して、煩惱や執着から解放されたなら、きつと

心静かに生き生きと生きられる善です。「これが「悟り」であり、その世界が涅槃＝彼岸なのです。それでは、死ななければ彼岸に行く事はできないのでしょうか？ そうではない筈です。華厳経というお経の中に「一切衆生・悉有仏性」つまり「生きているものは、すべて本来は仏様なのですよ」という言葉があります。しかし、肉体や感覚器官に由来する苦しみも多いし、生活の中では色んな執着が生まれるものだから、なかなか自分の中の仏様に對面できません。その為、お釈迦様を始め多くの仏教者は、自分の中の佛に出逢う色々な教えを説かれてきました。これが「お経」です。葬儀の時には仏様の弟子としての戒名（これは死後の名前ではなく仏弟子としての名前です）を授かり、仏様の弟子になります。そして仏様にきちんと涅槃を連れて行って貰えるようにお願いする引導を渡します。引導には、「仏弟子となつたこの方は、一所懸命この肉体を生きてきました。涅槃へ導いて下さい」という言葉が込められています。仏弟子となつた故人やご先祖様は、もう

仏様の仲間入りを済ませています。そして、きつと彼岸から、子孫を見守つてくれている筈です。お彼岸の先祖供養は、そのご先祖様方に感謝するものであり、自分が今頑張つて生きている事を報告し、見守つて下さいとお願ひするための法要です。毎日、忙しさの中で、自分の足許を見忘れがちなの事です。せつかくの彼岸法要の時に、もう一度自分を振り返つてみませんか？我々の中の仏様にも、煩惱や執着が邪魔をして出会えないのが娑婆です。もう一度仏様方の教えに耳を傾けてみませんか？因みに、この教えを最も凝縮したお経が般若心経です。

有難うございました

昨年、十月に本堂の床板の張替工事を行い、皆様方に篤志をお願いし、少し図々しいかとは思いましたが、振替用紙も送付致しました。結果、数多くの檀信徒の皆様方から多くの浄財を御寄進戴きました。心より感謝申し上げます。有難うございました。

十二月の成道会法要の時にご覧頂いた方も多いので

すが、本堂全体が明るくなり美しくなりました。日頃の法事や命日経等に預かりましたお布施は、寺の運営や布教資料、事務費、法要費等に使用する以外は、寺の営繕や補修管理に充てるようにできるだけ蓄えております。しかし、お寺の用品や工事は特殊なだけに費用もかさみます。それに住職は、寺の管理者であり、お寺は檀信徒皆様の為の仏様からの預かりものだと考えています。どうか檀信徒全員で浄国寺を護つて戴きますよう、改めてお願い申し上げます。私も浄国寺の発展のために精一杯頑張ります。

稚児参加者募集

熊本市仏教連合会という組織があります。毎年、各宗派持ち回りで、四月の始めに繁華街で花祭りを開催しています。今年は禅宗系の寺院（臨済宗や密教系の宗派も一緒に務めます）が当番となり、四月の二日に上通りで白像を引いて稚児行列を行い、鶴屋新館パレアで花祭り法要を行います。稚児衣装を身につけての行進は、子どもの一生の思い出にもなり、大変可愛らしいものです。又、その子の健康な成長を祈願する洒水の式も行われます。当番で回ってくる機会は五年に一度です。対象は三歳児から小学校三年生くらいまでになります。参加費は貸衣装代やお土産代も含め、一人一万円になっています。小さいお子様の記念になると思います。詳細は住職までお尋ね下さい。

松本喜二郎墓前祭

出にもなり、大変可愛らしいものです。又、その子の健康な成長を祈願する洒水の式も行われます。当番で回ってくる機会は五年に一度です。対象は三歳児から小学校三年生くらいまでになります。参加費は貸衣装代やお土産代も含め、一人一万円になっています。小さいお子様の記念になると思います。詳細は住職までお尋ね下さい。

当寺に祀つてある「谷汲観音像」の作者 松本喜二郎翁の墓前祭と観音供養を、例年通り四月二十九日（金昭和の日）に開催します。昨年は衛星放送の番組でも取り上げられ、観音様も全国的に有名になりました。浄国寺という縁で皆様と繋がっている観音様です。是非お詣り下さい。詳細は後日お知らせします。

奉納音楽会

毎年、墓前祭の時には、奉納音楽会として、演奏会を開いています。これは、興業師として人々のエンターテイメントに尽くしていた喜三郎翁への感謝の奉納といふ意味と、寺が先祖供養だけの場所ではなく、より多くの人の集える場所として寺の敷居を低くしたいという私の願ひの意味で行つています。今回も墓前祭の日の夜七時から開催します。

一昨年九月に東京（とアメリカ）から来てジャズを演奏してくれたベースの鈴木良雄氏が、今回は墓前祭に合わせて東京から一流のピアニストとドラマーを連れてピアノトリオで演奏してくれます。当日は、楽しむ時は楽しむ事に徹したいと思っておりますので、飲み物や食べ物も現地販売します。ゆっくりとくつろいで音楽を楽しんで下さい。多くの方（檀信徒に限りません）に集つて戴ければと思います。

鈴木良雄 トリオ
鈴木良雄 ベース
山本 剛 ピアノ
セシル・モンロー ドラム
ジャズのレストラン・ド曲を堪能して下さい。

演奏奉納料 一人二千円
（入場料、チャージ料です）

お彼岸の法要にあたり、先住への香奠等は、お気持ちだけ有り難く拝領致します。別途にお気遣い等は、考えられないで下さい（これは、先住の遺志でした）。